

◎ 定例会「初詣の会」1月6日(木) 雪 参加者20名

～極寒の雪の舞う中、今年一年の健康と幸運・新型コロナウイルスの終息を祈願しました!～

1月定例会は、一昨年までは七福神めぐりが恒例で25年連続して実施してきました。七福神めぐりは総じて歩行距離が長く高齢者にとっては負担になる事もあり、昨年からは2～3の神社仏閣を参拝する「初詣の会」とする事になりました。ところが、昨年は新型コロナ緊急事態宣言が発令されたため中止しました。

都営大江戸線練馬駅に集合した参加者が都営大江戸線/新宿線を乗り継ぎ市ヶ谷に到着し地上に出ると、2～3日前からの天気予報の通り小雪がちらほらと舞っていました。JR中央・総武線市ヶ谷駅に集合した参加者と合流し、改めて新年の挨拶を交わし20名で出発しました。

お堀を渡り外堀通りを横断、左に少し歩き駅から5分程で「市谷亀岡八幡宮」参道入口に到着。参道に入り30m位先の「市谷八幡男坂」と呼ばれる非常に急な階段が参道石段です。雪が少し降っていましたが、手すりにつかまりながら60段ほどの階段を上り、銅鳥居をくぐり更に階段を十数段上り茅の輪をくぐって、八幡造の本殿を参拝しました。ペットと一緒に初詣もできる珍しい神社となっています。帰りは緩やかな「市谷八幡女坂」を下り石段中段の、眼病平癒の伝説がある「茶ノ木稲荷神社」を参拝しました。



市谷亀岡八幡宮参道石段下記念写真



雪の中での初詣

参拝後市ヶ谷駅方面に戻り、メトロ市ヶ谷駅地上の児童公園に保存されている、江戸城三十六見附のひとつ「市ヶ谷御門」跡の石垣の一部を見ながら近くの私学会館アルカディアに到着。2階の「和食/洋食レストラン」、「中国料理レストラン」で各自お好みにより昼食をゆっくり楽しみました。

昼食後外を見ると雪がこんこんと降っていて止みそうにないため、一部の方が状況を勘案してここで帰宅する事になりました。

その後メトロ南北線/東西線と乗り継ぎ早稲田で下車、徒歩5分程で「穴八幡宮」に到着。

雪は降り続いており、亀の土台に支えられた朱色のユニークな大鳥居周辺から参道の木々もすっかり雪化粧し、境内には雪が積もっていました。壮麗な権現造の本殿に参拝しました。開運・金運・商売繁盛にご利益があるパワースポットになっています。隣の「放生寺」にも参拝。ここで14:00頃解散しました。



穴八幡宮随神門前

<以下ご参考>

市谷亀岡八幡宮

1479(文明11)年、太田道灌が江戸城西方の守護神として、鶴岡八幡宮の分霊を市ヶ谷御門内に勧請。「鶴岡(つるがおか)」に対して亀岡(かめがおか)八幡宮と称した。江戸城外堀の完成後(1636年、寛永13年)茶ノ木稲荷神社地内に遷座。1804(文化元)年建立の新宿区唯一の銅鳥居が現存江戸八所八幡宮(江戸を代表する八箇所の「八幡宮」)のひとつ

茶ノ木稲荷神社

一千年余りの昔、弘法大師が関東下向の際に開山、現在は市谷亀岡八幡宮の摂社(本社に付属し、その祭神と縁故の深い神をまつた神社)

## 穴八幡宮

1062（康平5）年、源義家（八幡太郎）により東北の鎮護の社として早稲田に創建八代将軍徳川吉宗が現在も続く流鏝馬を奉納「一陽来復御守」が金銀融通の御守として人気が高く、冬至から節分までの間限定で頒布『一陽来復：易経で冬至を表す言葉で、冬が終わって春（新年）が来ること。悪いことが続いた後に幸運が開けること。』江戸八所八幡宮のひとつ

## 放生寺

穴八幡宮の別当寺（専ら神仏習合が行われていた江戸時代以前に、神社を管理するために置かれた寺のこと）

思いがけず雪が降る中で、雨のように濡れる事も無く雪景色を楽しみながらの初詣になりました。当日参加された方また参加できなかった皆様にも、市谷亀岡八幡宮・穴八幡宮のご利益がある事をお祈りいたします。

報告：新井建男